

平成29年度 決算の概要



1. 総 括



平成29年度は、「夢」、「子ども」、「高齢者」をキーワードに、「安全・安心に暮らせるまちの創造」、「子どもが輝く子育て・教育環境の充実」「アクティブシニアが輝く生きがいと活躍の場の創出」、「次代を見据えたまちづくりの推進」の4つの重点項目を基軸に、「市役所新庁舎の移転新築」や「新産業団地の整備」といった小野市発展の礎を築くビッグプロジェクトに加え、これまでからの小野市の強みである子育て支援や教育のさらなる充実、高齢者の活躍推進など「次世代へつなぐ新たなまちづくり」に挑戦しました。

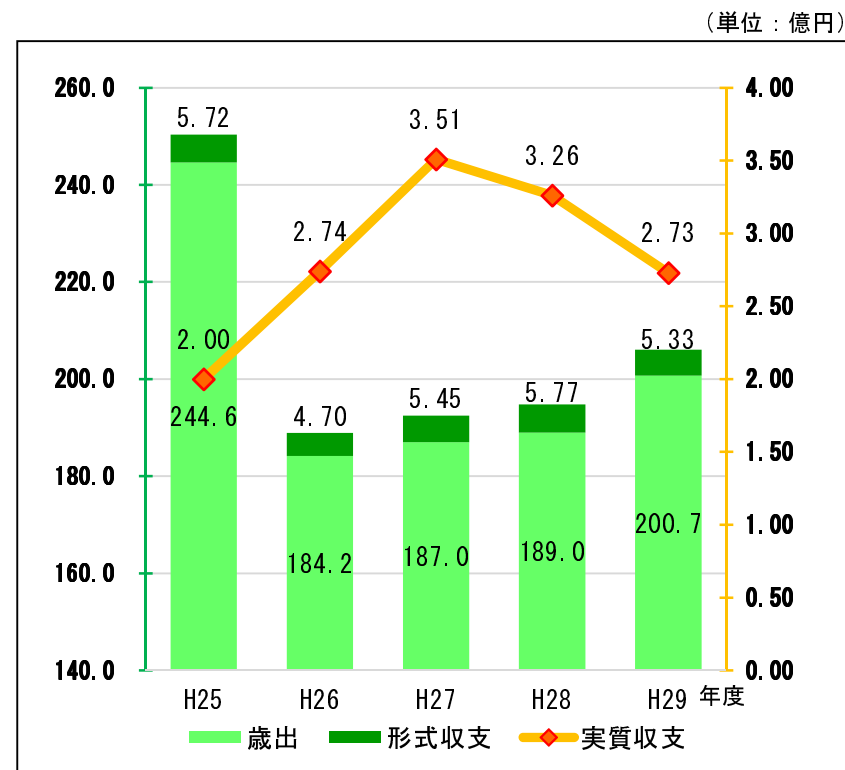
歳入においては、市税が9年ぶりに70億円台を回復し72.3億円と増加したものの、地方交付税は2億円減少し30億円となりました。一方、財産の処分による財産収入や積極的な事業展開により市債（地方債）が増加（昨年度比5.6億円増）しました。

◆会計別収支決算の状況

(単位：千円)

会 計		一 般	国民健康 保 険	介護保険	後期高齢者 医 療	合 計
項 目						
歳 入		20,604,495	6,311,048	3,887,420	557,365	31,360,328
歳 出		20,071,794	6,132,753	3,833,101	542,687	30,580,335
形式収支		532,701	178,295	54,319	14,678	779,993
翌年度繰越財源		259,686				259,686
実質収支		273,015	178,295	54,319	14,678	520,307
現在高	基 金	9,023,721	142,280	348,681		9,514,682
	地方債	18,521,740				18,521,740
	債務負担行為に 基づく翌年度以 降の支出予定額	4,807,654				4,807,654

◆一般会計決算額の推移



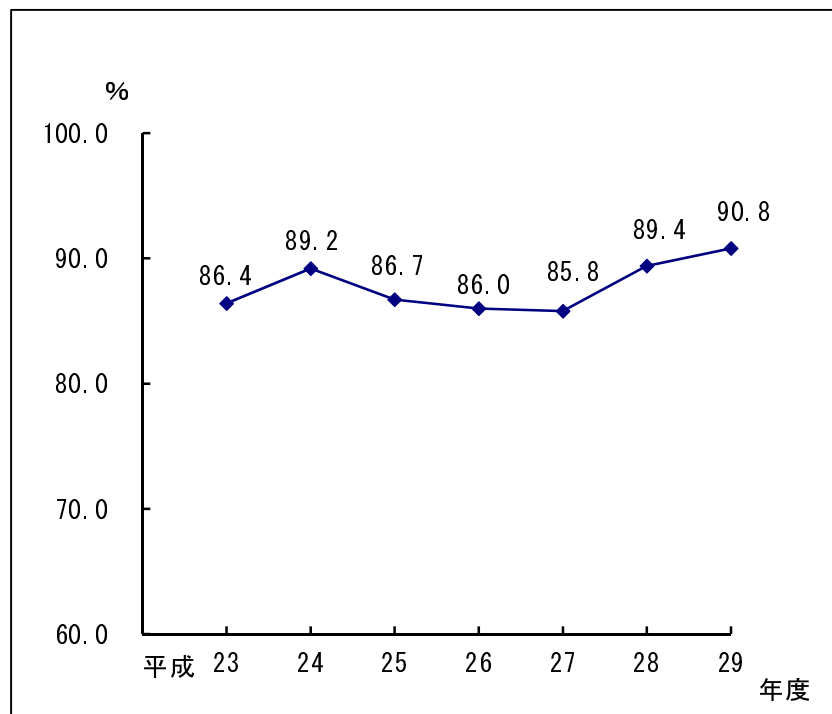
●一般会計の歳入歳出差引額（形式収支）は5億3,270万1千円。この額から翌年度へ繰り越すべき財源2億5,968万6千円を差し引いた**実質収支は2億7,301万5千円**で、このうち財政基金条例の規定により1億4,000万円を積み立て、その残額1億3,301万5千円を翌年度へ繰り越しています。

●単年度収支から財政基金の取崩しや積立、繰上償還を考慮した実質単年度収支は**8年連続**の黒字。

〔実質単年度収支：単年度収支（2.73億円－3.26億円）＋積立金0.13億円＋繰上償還金（0.92億円）－積立金取崩額（0）＝0.52億円〕

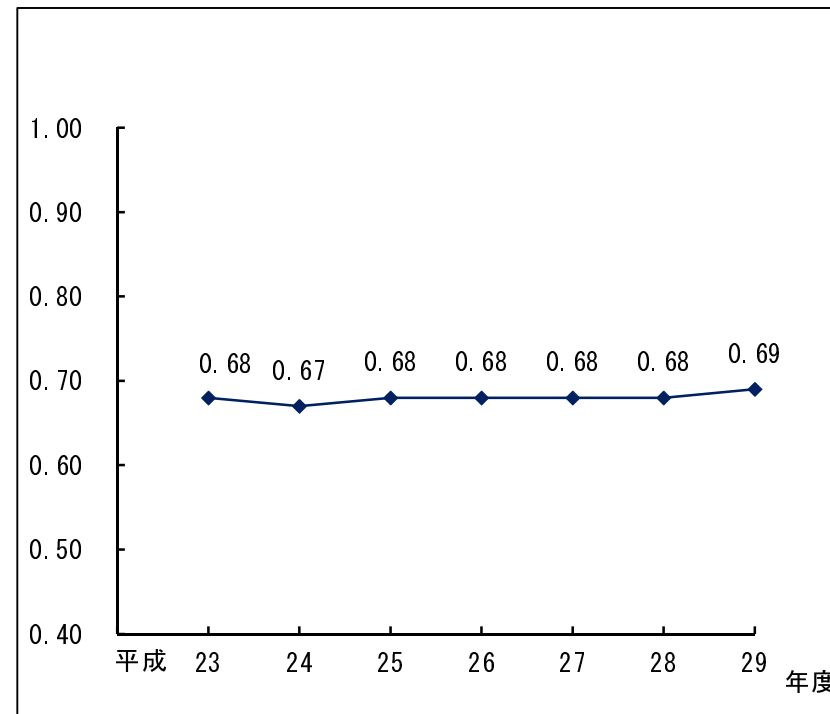
2. 経常収支比率・財政力指数の推移

◆経常収支比率の推移



- 経常収支比率とは、経常経費に充当された一般財源を経常的に収入される一般財源で除した比率です。
- 財政構造の弾力性を示すもので、比率が高いほど財政の硬直化が進んでいることになります。
- 義務的経費の増加等により、対前年度 1.4%上昇しました。

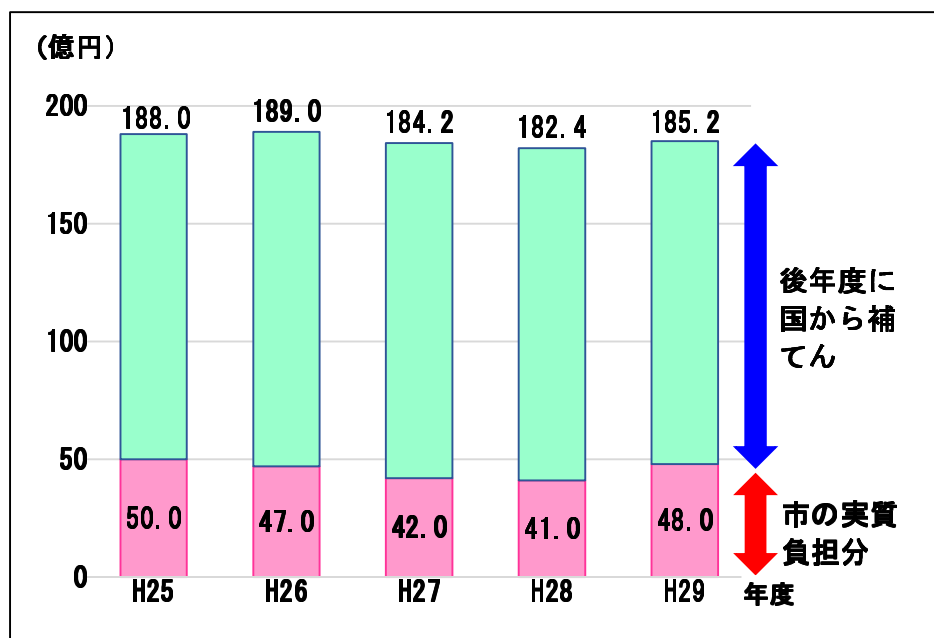
◆財政力指数の推移



- 財政力指数とは、基準財政収入額を基準財政需要額で除した指数（3ヶ年平均）です。
- 市の財政基盤の強弱を示し、指数が高いほど財政基盤が強いことになります。

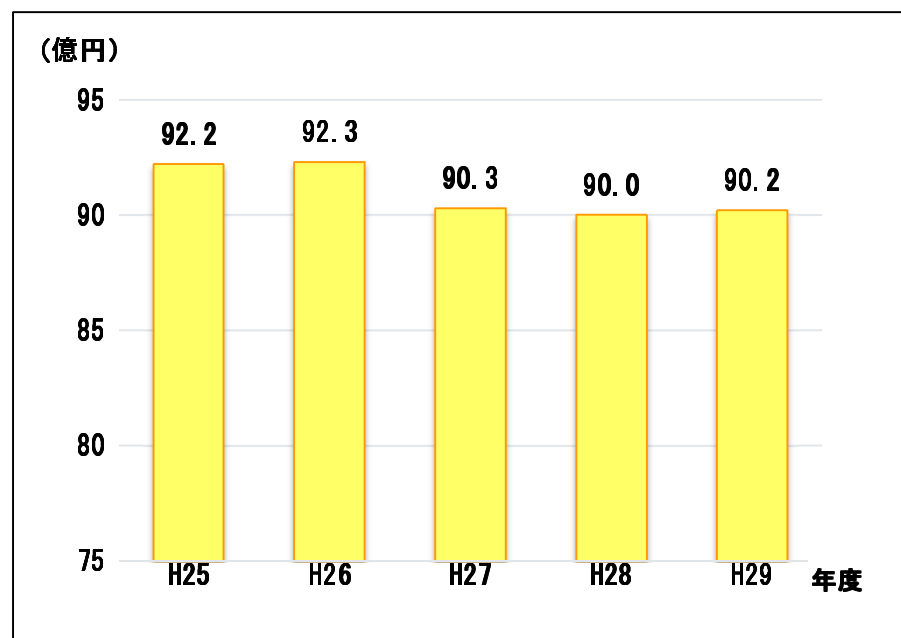
3. 市債(地方債)残高・基金残高の推移

◆市債残高



- 借金にあたる市債残高は185億2千万円となり、臨時財政対策債の全額、北播磨総合医療センター建設に要した出資債の2分の1など後年度に国から補てんされるものを除いた**実質的な市の負担額は約48億円に抑制**されています。

◆基金残高



- 預金にあたる基金残高は、公共施設整備基金を新庁舎の建設や消防署北分署の整備、浄谷黒川多目的運動広場整備事業の財源として活用しながら、**90億円台を維持**しました。(8年連続で財政基金の取り崩しなし。)

4. 財政健全化指標

(単位: %)

	2013	2014	2015	2016	2017	判断基準	
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質公債費比率	9.1	7.6	5.2	4.3	3.9	25.00	35.00
将来負担比率	△20.4	△24.8	△28.4	△36.4	△39.1	350.00	—
実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	13.13	20.00
連結実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	赤字なし	18.13	30.00

※数値が低いほうが良好な値を示しています。判断基準の数値をオーバーすると財政健全化計画などを作成し自主的な改善が義務づけられます。

- 4つの指標全てにおいて健全化団体の基準をクリアし、良好な数値を保っています。
- 実質公債費比率は、単年度の比率は上昇していますが、3ヵ年の平均値を用いるため0.4%改善しています。
- 将来負担比率は、後年度に国から補てんされる地方債の活用等により8年連続でマイナス値を維持しています。

5. 企業会計の状況

(単位:千円)

区 分		29年度			28年度	収支増減	(参考)		
		収 入	支 出	差 引	差 引		一般会計繰入金 (29年度)	一般会計繰入金 (28年度)	繰入金増減
都市開発 事業会計	収益的収支	9, 533	9, 367	166	27, 181	△27, 015	—	—	—
	資本的収支	6, 500	508, 385	—	—	—	—	—	—
水 道 事業会計	収益的収支	1, 405, 163	1, 070, 162	335, 001	324, 459	10, 542	1, 310	1, 310	—
	資本的収支	252, 922	493, 605	—	—	—	—	—	—
下 水 道 事業会計	収益的収支	1, 766, 712	1, 654, 488	112, 224	14, 803	97, 421	712, 112	811, 417	△99, 305
	資本的収支	750, 206	1, 421, 118	—	—	—	—	—	—
合 計	収益的収支	3, 181, 408	2, 734, 017	447, 391	366, 443	80, 948	713, 422	812, 727	△99, 305
	資本的収支	1, 009, 628	2, 423, 108	—	—	—	—	—	—

※ 企業会計における資本的収支の不足額については、過年度分損益勘定留保資金等で補てん。

平成29年度小野市一般会計決算における

市町村交付金(社会保障財源化分)が充てられる社会保障施策に要する経費について

消費税率(国・地方)が、平成 26 年 4 月 1 日から5%から8%へ引き上げられたことに伴い、消費税込(現行分の地方消費税を除く。)については、その用途を明確にし、社会保障財源化することとされており、地方団体においても、地方消費税込の引上げ分を全て社会保障施策に要する経費に充てるものとされています。

以上の趣旨を踏まえ、平成 29 年度小野市一般会計決算における社会保障施策経費へ下記のとおり活用しています。

記

1 市町村交付金(社会保障財源化分)

地方消費税率引上げに伴い県から交付を受けた額 334,378 千円

2 地方消費税の引上げ分に係る社会保障施策に要する経費への活用

市町村交付金(社会保障財源化分)334,378 千円については、

保育所保育料の軽減に 103,602 千円、

後期高齢者医療への支援に 178,360 千円

高校3年生までの医療費無料化に 52,415 千円を充てて、活用しました。

3 根拠法令

地方税法 第 72 条の 116 第2項

平成29年度決算 重点項目別の主な事業内容



1. 安全・安心に暮らせるまちの創造



2. 子どもが輝く子育て・教育環境の充実



3. アクティブシニアが輝く生きがいと活躍の場の創出



4. 次代を見据えたまちづくりの推進

重点項目 1. 安全・安心に暮らせるまちの創造

- 第3の救急拠点「消防署北分署」の整備（1億5,376万円）

高齢化に伴い高まる救急需要に対応するため消防署北分署を整備。市内全域において救急現場到着10分以内を実現。

- コミュニティバスの運行（8,799万円）

ノンステップバス7台、ワゴンタイプ1台、デマンドバス1台を配備。9月から運行が始まった匠台ルートを含む全11ルートを運行し、交通弱者の移動手段を確保。

- 浄谷黒川多目的運動広場の整備（3億2,300万円）

災害時に自衛隊のキャンプ基地ともなる、全天候型陸上競技場を整備。平成29年度はフィールド人工芝の整備を実施し、平成31年度末に完成予定。



- 片山高田線の道路改良（5,078万円）

多くの学生が通学路として利用する市道107号線の道路改良事業。国庫補助事業を利用し、用地購入等を実施。

- 南環状線カーブの改良（4,844万円）

市道101、103号線の直角カーブを改善することで交通の安全性を確保。ポケットパークを設置し、市の玄関口としてふさわしい景観を整備。

- 安全安心パトロールの展開（5,391万円）

専用車両8台、警察OBによる専任パトロール隊員15名により市内巡回。平成29年度はパトロール車2台を更新。

- LED防犯灯の新設（370万円）

防犯灯倍増5000作戦の4年目。当初予定より1年前倒しで事業を完了。平成29年度は139灯設置。

各自治会が従来から管理する防犯灯のLED化への補助も継続実施。

重点項目 2. 子どもが輝く子育て・教育環境の充実

- **高校3年生までの医療費完全無料化（2億5,446万円）**

県内初となる高校3年生までの医療費完全無料化を継続。

- **4・5歳児幼児教育・保育料無料化**

4・5歳児の幼児教育・保育料の無料化（所得制限なし、給食費相当分を除く）を継続。0～3歳児の保育料軽減分を合わせると保護者の負担は約3億円減少。

- **「学校給食センター」整備（11億5,700万円）**

副食を2品から3品に充実し、食物アレルギー除去食にも対応。HACCPに対応したフルドライシステムを採用し、より安全・安心な給食が提供可能。



- **小学校パソコン教室の整備（5,163万円）**

市内全小学校（8校）のパソコン教室の機器を更新し、プログラミング教育必修化に向けたICT教育の環境を整備。

- **小中一貫教育の推進（1,639万円）**

校務支援システムや到達度テストで義務教育9ヶ年の情報を一元管理。データの共有化により、児童・生徒に対して円滑で適切な指導を行う。

- **学校トイレの洋式化（1,420万円）**

平成28年度から5ヵ年計画で学校トイレの洋式化を実施（2年目）。既に洋式化されている小野東小学校、小野中学校、幼稚園を除く市内11校について、使用頻度の高いトイレの便器を洋式化。平成29年度末時点での洋式化率は52.8%を達成。

- **新生児聴覚検査の助成（140万円）**

平成29年度から新たに聴覚障がい早期発見・早期療養を推進するため、新生児聴覚検査費用を全額助成。平成29年度は301人に助成。

- **産婦健康診査費の助成（245万円）**

平成29年度から新たに産後うつや新生児虐待の予防を図るため、産婦の健康診査費用を助成。5,000円を上限に、年2回まで費用を助成。平成29年度は延545人に助成。

重点項目 3. アクティブシニアが輝く生きがいと活躍の場の創出

- **鍬溪温泉の再生（1 億 5,927 万円）**

来住地区住民の手により受け継がれてきた「鍬溪温泉」を再整備し、地域コミュニティと高齢者の生きがい就労の場として地域住民による主体的な運営が始まる。

- **地域づくり協議会への助成（2,330 万円）**

市内 6 地区の地域づくり協議会の活動を支援。協議会が独自で企画・実施する地域活性化の活動に対して、使途自由の補助金を交付。

- **エイジ・ルネサンス・パーティの開催（381 万円）**

65 歳を迎える方の第 2 の成人式を開催。生涯青春、生涯現役を目指す契機とする。平成 12 年度から始まり 18 回目の開催。

- **地域のきずなづくりへの支援（815 万円）**

自治会の諸活動を支援し、高齢者の生きがいづくり、地域力の強化、きずなづくりに繋げる。

- **シニア世代の社会参加促進（45 万円）**

シニア世代の未来開発セミナーを開催（2 回）。セカンドライフ応援セミナーは 51 人、シニア活躍応援セミナーは 66 人が受講。

- **シニアサポートモデル事業（316 万円）**

高齢者を中心とした団体の地域活性化等の活動を支援。立上げに必要な経費 200 万円（初年度のみ）、運営費 50 万円/年（3 年間）を上限に補助。

平成 29 年度は新規 2 団体を含む 7 団体を支援。



- **シルバー人材センター運営費の助成（1,190 万円）**

定年退職後のシニア世代の能力の活用と生きがいづくりを促進し、地域社会の活性化を図る。

- **堀井城跡活用のための調査（140 万円）**

歴史的価値のある堀井城跡を、市民憩いの場として整備するために基本計画を策定。平成 30 年度に実施設計及び工事に着手。

重点項目 4. 次代を見据えたまちづくりの推進

- **庁舎の移転新築（1億5,209万円）**

市民の「夢」と「誇り」のランドマークとなる新庁舎は、平成32年4月完成を目指し、基本設計・実施設計、造成工事等を実施。

- **新産業団地の推進（4,755万円）**

県と共同で市場地区に「ひょうご小野産業団地」を整備するため、エリア内の幹線道路「新都市南北線」の設計に着手。



- **シビックゾーン周辺の景観整備（1,202万円）**

都市機能の集積するシビックゾーンの玄関口にあるソロ池（敷地町）に水質浄化と夜間の景観向上を兼ねた噴水装置を設置。民間開発による商業施設の進出と相まって新たな賑わいを創造する。

- **小野まつりの助成（夏のおの恋）（5,170万円）**

第40回記念としてスマートフォンサイトの新設など、SNSを活用した情報発信や演出を更に充実させ、全国に「おの恋おどり」をPR。演技を披露する踊り子数は過去最大を更新し、ますます盛り上がりを見せる。

- **小野ハーフマラソンの開催（冬のおの恋）（700万円）**

第4回となる小野ハーフマラソンを開催。

5,601人のランナーと約2万人の市民が大会運営や応援に参加する冬の一大イベントとなった。

- **大池総合公園の整備（2,730万円）**

小野まつりをはじめ多彩なイベントが開催される大池総合公園に、屋外トイレを新設。また、市民広場には色と香りを楽しむローズガーデンも整備。

- **ふるさと小野応援プログラムの推進（9,542万円）**

ふるさと小野応援プログラムの寄附者に対し、小野市の魅力を発信するため、ふるさと産品の返礼品を届ける。

- **次世代へつなぐ匠の技継承（270万円）**

伝統工芸品である播州そろばん、播州刃物の技術を次世代につなぐため、後継者育成を実施する関係組合への支援を実施。

平成29年度の助成対象者は、播州そろばん組立職人1名、握り鋏製造職人2名。